

ラリーアートジャーナル

2007 SUMMER vol.118

2007年APRCラリー北海道  
三菱コルトでモータースポーツ始めませんか?  
[www.ralliart.com](http://www.ralliart.com)

# KATSU疾走。

激闘 APRCラリー北海道



R  
A  
L  
L  
I  
A  
R  
T  
J  
O  
U  
R  
N  
A  
L



# APRC [ラリー北海道 2007]

# 熱波、十勝へ。

FIAアジア・パシフィックラリー選手権 第4戦 / JAF全日本ラリー選手権 第6戦  
 FIA ASIA-PACIFIC RALLY CHAMPIONSHIP 2007 Round 4  
 JAF JAPANESE RALLY CHAMPIONSHIP 2007 Round 6

APRCラリー北海道は田口勝彦&J.ヴァリマキの  
 チームMRFタイヤ勢が総合2位&3位でフィニッシュ



フィニッシュランプでのKATSUとコ・ドライバーのマーク・ステイシーは、雑聞の多かったラリーを乗り切った喜びを素直にあらわにしていた



「今年のラリー北海道は梅雨が残る」と語ったヴァリマキ。「またここに帰ってきて、今度こそ勝ちたい。」



「2000年以来、2度目のラリー北海道ですが、やっぱり難しい」と語るナレン・クマル選手だが、昨年のインド選手権制覇も納得の順応性の高さを見せて総合 / APRC5位に



5回目のラリー北海道となったニュージーランドのブライアン・クリン選手は、最終ステージに走って総合10位 / APRC8位



大ベテランの田口盛一郎選手。終盤争った池町佳生選手を振り切り、日本人三菱車ユーザー最上位となる総合8位に見事食い込んだ

## 大荒れの展開の中、KATSUが見せた強さとプロフェッショナリズム

したたかなる強さ。長年の海外ラリー参戦を通して培ってきた実力を、田口勝彦は日本の舞台でまざまざと示した。

一昨年にはKATSUが初めての母国優勝を飾ったラリー北海道。昨年はAPRC3位と、結果としてはまずまずだったが、その実、優勝したスバルのコディ・クロッカー選手には大差をつけられていた。雪辱を誓った今年、チームMRFタイヤは格段の性能向上を果たした新型MRF製タイヤを前戦キャンペラから投入。大会直前に行った現地テストでも上々の仕上がりをを見せていた。

迎えたラリーは、立ち上がりから荒れた。まず、今回スポット参戦してきたスバルの新井敏弘選手がSS2終了後にブレーキトラブルによって早々にリタイア。KATSUとシリーズポイントを争うスバルの柳澤宏至選手も、SS2で喫したパンクにより大幅な後退を余儀なくされる。また、KATSUのチームメイトであるユッシ・ヴァリマキは、食あたりによる体調不良

に見舞われ、顔面蒼白の状態ですべてステージに挑む、という有り様だった。

そしてKATSU自身も無傷ではなかった。第1レグの序盤から、ターボのブースト圧が十分に上がらないという予想外のトラブルが直撃。また、低温域では高いパフォーマンスを示した新型MRFタイヤも、晴天に恵まれ気温 / 路温が上昇したこの週末の十勝地方のグラベルへのマッチングは完璧とは言えなかった。さらには、第2レグ中盤からエンジンが不調となり、終盤には警告灯が点灯する中での走行に。KATSUとしては、マキシマムアタックを最終封じられた形のまま、総合 / APRCともに2位という結果で今年のラリー北海道を終えることとなった。

それでもKATSUは「いいラリーでした」と振り返る。「去年のラリー北海道は、正直言って『惨敗』という結果でした。今年もコディには及ばなかったけど、いろいろトラブル

が起こったにもかかわらず、彼との差は一気に縮まった。僕らの進歩がはっきり表れた一戦になったと思います」

完璧な状態でなくとも腐ることなく、できる限りの手を尽くし、そして最後まで走り切る。まさにプロフェッショナルな仕事ぶりを、KATSUは母国イベントで見せつけた。また、体調不良に苦みながらの戦いとなったヴァリマキも総合 / APRCともに3位でフィニッシュ。「自分のコンディション管理の甘さが腹立たしくて、『とにかく最後まで頑張らない』と思って走りました」とプロ根性を示した。この結果、シリーズポイントではKATSUが首位クロッカー選手と14ポイント差の2位。その2ポイント後方の3位にはヴァリマキがつけ、戦いはシーズン後半の3戦へと突入していく。

なお、同時開催された全日本ラリー選手権第6戦は、APRC以上に波乱の展開となった。今季初優勝を目指し、後続に大差をつけて首位を独走していた双田原文雄選手が、第2レグ中盤で無念のリタイア。今季全日本初登場となった石田雅之選手が繰り上がってトップに立つも、なんと最終ステージの残り約3kmというところで痛恨のクラッシュ。これにより石田正史選手が、2001年の第1回大会優勝以来となるラリー北海道完走を、またも優勝で飾るという劇的な幕切れとなっている。

2007年7月6日(金)~8日(日) 北海道・十勝地方  
 SS数:16 SS合計距離:232.42km 総走行距離:1033.92km

### FIAアジア・パシフィックラリー選手権 第4戦「ラリー北海道」

Pos.	Driver / Co-Driver	Nat.	Car	Time / Gap
1	C.クロッカー / B.アトキンソン	AUS / AUS	スバル・インプレッサ	2時間32分13秒0
2	田口 勝彦 / M.ステイシー	JPN / AUS	三菱ランサーエボリューション	1分23秒6
3	J.ヴァリマキ / J.カリオレボ	FIN / FIN	三菱ランサーエボリューション	1分59秒6
4	柳澤 宏至 / 長崎津 正	JPN / JPN	スバル・インプレッサ	4分54秒1
5	V.R.N.クマル / J.ジャッド	IND / NZ	三菱ランサーエボリューション	6分38秒2
6	R.サンガー / B.ヘイズ	RI / AUS	スバル・インプレッサ	9分26秒6
7	鎌田 卓麻 / 加藤 直毅	JPN / JPN	スバル・インプレッサ	10分39秒6
8	田口 盛一郎 / 厚地 保幸	JPN / JPN	三菱ランサーエボリューション	12分17秒2
9	池町 佳生 / V.ボヌサミー	JPN / AUS	スバル・インプレッサ	14分08秒6
10	B.クリン / F.ベダーソン	NZ / NZ	三菱ランサーエボリューション	16分04秒7

### JAF全日本ラリー選手権 第6戦「ラリー北海道」

Pos.	Driver / Co-Driver	Nat.	Car	Time / Gap
1	石田 正史 / 宮城 孝仁	JPN / JPN	三菱ランサーエボリューション	2時間25分10秒4
2	北村 和浩 / 竹下 紀子	JPN / JPN	スバル・インプレッサ	41秒7
3	炭山 裕矢 / 松井 博和	JPN / JPN	スバル・インプレッサ	1分53秒9
4	岩下 英一 / 高橋 昭彦	JPN / JPN	三菱ランサーエボリューション	1分59秒6
5	藤田 龍彦 / 北田 稔	JPN / JPN	スバル・インプレッサ	2分03秒1
6	飯泉 忠男 / 森 公聖	JPN / JPN	スバル・インプレッサ	2分26秒2

(SS16はキャンセル)



# RALLY HOKKAIDO 2007

[ラリー北海道 2007]

## 全日本ラリー選手権第6戦は石田正史選手が乱戦を制し今季2勝目をマーク



第3戦で3年ぶりの優勝を果たしたばかりの石田正史選手がシーズン2勝目を獲得。「2年前のこのラリー北海道でクラッシュして大怪我を負い、多くの方々にご迷惑とご心配をおかけしました。そのラリーでこうして勝つことができ、本当にうれい」と語った



PWRC、全日本ともに優勝になかなか手の届かない奴田原文雄選手。そのスピードは他を圧倒しており、今度こそと思わせたが、……



久々の勝利を目前に痛恨のクラッシュを喫した石田雅之選手だが、最後の最後まで攻め続けた果敢さを称賛する声は絶えなかった



全日本はスポット参戦ながらも、先の第4戦に続いて今回も4位に食い込んで岩下英一選手、タフなグラベルでの安定感が光る



今秋発売予定の「ギャランフォルティス」が出現。セレモニースタートに登場したほか、ラリー中はサービスパークにて特別展示



無料開放されたサービスパークには「社会科見学」で幼稚園児も来場。チームMRFタイヤの外国人スタッフたちも明るく歓迎



セレモニースタートの前に催されたラリーショーでは各チームがサイン会を実施し大盛況。チームMRFタイヤはもちろが一番人気



ラリーショーでは帯広名物「ばんえい競馬」の模擬レースが開催され、KATSUやヴァリマキのAPRCドライバーが参加。迫力満点



ラリー前には恒例の「三菱自動車 / ラリーアート エントラントミーティング」を帯広三菱自動車販売店にて開催し大盛況



APRC第1戦ニューカレドニア

今季APRC開幕戦は、ヴァリマキとKATSUのチームMRFタイヤが1-2フィニッシュ。第2レグでタイヤ選択を決めたヴァリマキに逆転を喫したKATSUだったが、第1レグで圧巻の6連続トップタイムを叩き出し、「自分の走りには納得できた」と自信を深めた



APRC第2戦ワングレイ

チームMRFタイヤは出場せず、スバルのクロッカーがAPRC優勝。しかし、総合優勝を獲得したのはランサーエボリューションを駆る地元期待の20歳、ヘイデン・バロトン。前年APRC王者を破り、APRC / ニュージーランド選手権ともに初の優勝を飾った



APRC第3戦キャンベラ

第1レグはクロッカーが制するも、KATSUが僅差で追撃。ところが第2レグ最初のステージでトラブルが襲い、逆転ならず。それでもKATSUは総合 / APRCともに2位で走り切って、チャンピオン争いにつなげた。APRC3位にはヴァリマキが続いた

# CCR [FIAクロスカントリーラリー・ワールドカップ]

## 開幕戦トランス・イベリコでJ-N.ロマが総合2位に



昨年のCCR最終戦UEAデザートチャレンジで登場し、今年のダカールラリーを経て、3戦目の実戦となったMPR13。ロマは元WRC王者のサインとスピードの両角の勝負を挑んだ

2007年ダカールラリーで7年連続・12回目の総合優勝を獲得した三菱自動車チームは、5月29日～6月3日にポルトガルとスペインをまたいで開催されたCCR開幕戦トランス・イベリコラリーに出場。三菱バジェロエボリューション(MPR13)を駆ったホアン・ナニ・ロマが総合2位、リュック・アルファンが総合4位でフィニッシュした。

一般的なクロスカントリーラリーよりはWRCに近いコンディションのグラベルステージ計7カ所 / 1139.51kmで行われたこの一戦。アルファンはステアリングトラブルとスタックによる大幅なタイムロスを経て後退。ロマも3度のバンクに見舞われて、総合優勝はフォルクスワーゲンのカルロス・サインツに譲る形となった。だが、2位にはロマがしっかりと続き、アルファン

もSSTトップタイムを叩き出しながら追いついて4位でフィニッシュ。三菱自動車チームとしては、現状の戦闘力の高さを確認しつつ、今後の開発で取り組むべき課題を明確化させることができた有意義な実戦テストとなった。「3本のバンクで勝利が遠退いたのは残念だったが、この種のコースを舞台に元WRCチャンピオンのサインツに続く総合2位を得られたことには自信を持ってよいと思っています」とロマは語っている。

なお、2008年で30周年の記念大会を迎えるダカールラリーの開発概要が先頃発表され、そのステージ合計距離は6年ぶりに6000kmを超え、同時にガソリン / ディーゼルエンジンともに吸気リストリクター口径を各々さらに1mm絞る計画であることが明らかにされている。

増岡 浩 連載コラム

# 砂漠への招待状。

vol.9

## 実戦の合間に僕がどんなことをしているのかお教えしましょう。

今年のダカールラリーが終わってから、もう半年以上。例年だと春にチュニジアで行われるラリーに出ていることが多いんですけど、今年はその一戦がクロスカントリーラリー・ワールドカップから外れてしまったので、ダカールから帰ってきたからの僕は基本的にずっと日本で過ごしてきました。

時々こういう質問を受けるんですよ、「ダカールラリー以外の10カ月以上を、どう過ごしているんですか?」って。僕の仕事はラリードライバーで、最大の目標はダカールラリーで勝つ

ことです。なので、春から秋にかけては身体と心を鍛え、本番を迎える1月にピークを持っていくよう調整していきます。身体を鍛えることの基本はフィジカルトレーニングですね。数年前には自宅にトレーニング設備を入れて、ちょっとしたジムを作りました。でも単調なトレーニングばかりじゃ飽きてしまうので、いろんなスポーツも織り交ぜて、ほぼ毎日、何かしら体を動かしています。レーシングカートで1時間くらいの連続走行を、あえて夏場にやったりもしますね。

心の方は、まずはイメージトレーニングですね。日本で生活している間も欠かさず行っています。おかげで、と言うべきか、数カ月ぶりにラリーカーに乗り込んで実戦を走り出しても、イメージと実際のスピードがズレていたことはほとんどないですね。逆に言えば、この力があるから、40代の半ばを過ぎてもトップレベルでやれているのかもしれないですね。

それから、最近は陶芸でも心を鍛えています。実は2年ほど前から備前焼の虜になっていて、都合が合えば岡山の窯元まで出かけているんです。ロクロを回すときのポイントは、センターをいかに正確に出すか。少しでもブレたら崩れてしまいますから、きっちり精神統一を図

する必要があります。それから、脳もしっかり締めて(笑)。備前焼は、他の流派よりも高い1300 くらいの高温で焼くんで、一段と割れやすいんですよ。でも、やはり薄く仕上げられた方が出来栄がいい。その点、僕の作品は、まだまだですね。改良すべき項目は山ほどあります。

身体トレーニングと陶芸。これは、いわば『動と静』です。そのバランスを取ることは、ダカールラリーではすごく重要なことだと思います。長い戦いですから、いつも100%で走るわけにはいきません。それでいて、集中力は保ち続けなければなりません。動と静のバランスが取れているドライバーが実際強いと思います。

ここ数年のダカールラリーは本当にレベルが高くて、1kmあたりを1秒以内の差で争うWRC並みの接戦になってきています。来年大会のステージ距離は合計約6000kmということですから、仮に1km1秒の差があったとすれば100分、つまり1時間40分の差になります。それではまったく話にならない。たとえば、去年のダカールラリーでは、優勝した三菱自動車チームのリュック・アルファンとVWのジニール・ドゥベリエとの差は、1kmあたりでは0.2秒弱の差でしかなかった。いま僕らがやっているのは、そういうレベルの戦いなんです。

Profile : 1960年3月13日、埼玉県生まれ。1987年からダカールラリーに参戦。2002年、2003年と2年連続で総合優勝を飾っている世界を代表するプロフェッショナル・クロスカントリーラリードライバー



トランス・イベリコではロマが2位。彼はバギーなどで自分なりにトレーニングしているようで、このところ本当に速くなりましたね



9回目!

田口勝彦 連載コラム

## KATSUの|い|っ|だ|っ|て|エ|ボ|リ|ユ|エ|シ|ョ|ン|

## 充実のラリー北海道は2位。やっぱり母国イベントはいい!

なかなか思いどおりにはいかないですね、ラリーってやつは。このところ、自分のドライビングにもマシンの仕上がりもかなりいい手応えがあるので、何とか勝ちたいと思っていますんですけど、開幕戦ニューカレドニア、第3戦キャンベラ(第2戦はスキップ)に続いて、地元日本での第4戦ラリー北海道も結果は2位。むむむ……。今回は出鼻からくじかれたような感じでした。ターボのブーストがフルにかけられない状態で、走れるけどエンジンに力がない。でも、それ以上に問題だったのがハンドリン

グの不調で、特に低速コーナーのターンインがしっくりこない。これらの不具合は第1レグ日中のサービスで解決できたんですけど、今度はタイヤの摩耗と発熱が問題に。キャンベラから投入した新型のMRFタイヤは、低温域ではかなり高いパフォーマンスを発揮するようになったんですけど、高温域ではまだまだ改良の余地アリ。ところが、今回特にマークしていた柳澤選手は早々に喫したバンクで、チームメイトのユッシは体調不良でそれぞれ遅れてくれたので、正直『助かった』という感じです。

とどめは、第2レグで抱えたエンジン不調。今度はMIVECの切り替えに問題が出たようで、やっぱりフルパワーを得られない。最後は警告灯まで点灯してハラハラしましたが、何とか最後まで持たせることができました。それもこれも、飛ばしたい気持ちを『鉄の心』で抑え続けてきた忍耐の賜物だろうと、少し自画自賛するわけです(笑)。こんなふうを書いていくと、あんまり実のないラリーだったように思われるかも



陸別オフロードサーキットを使ったステージは、ラリー北海道ではちょっと異質だが楽しいコースです。お客さんにもアピールできましたね。

と、そんな必要はないんですけど、母国イベントはいい! というのは、メディアの方にも聞かれて答えたんですけど、点数をつけるとすれば80点。優勝できなかったことは残念だけど、今後につなげていける収穫の多いラリーになりました。それにしても、母国でのラリーはやっぱりいいですね。今回のセレモニースタートには僕の予想以上に大勢のお客さんがいらしてくださってうれしかった。沿道からもたくさん声援をいただきました。特に子供たちからの応援には本当に元気つけられます。

3戦連続2位っていうのは悪い結果じゃないのかもれないけど、もう2位はいいない! やっぱり勝ちたい! 今年のAPRCもあと3戦。次のマレーシアラリーは僕の第2の故郷ですし、去年もかなりいい戦いができたイベントです。チャンピオン獲得もまだまだあきらめてませんから、コディにプレッシャーをかけていこう、マレーシアではシーズン初優勝を目指して全開で行きます!

田口勝彦オフィシャルホームページ  
http://www.ralliart.co.jp/katsu/

Profile : 1972年2月7日、岡山県生まれ。22歳より海外に渡り、ランサーエボリューションで国際ラリーの経験を積んできた。1999年にはAPRC総合チャンピオンを獲得。株式会社ラリーアート社員



# これぞ『群雄割拠』

実力派ぞろいの三菱ランサーエボリューション勢に注目!



メキシコで会心の勝利を収めたイギリスのベテラン、ヒギンズ選手。シーズン終盤には得意とするアイルランド、GBの2連戦が控えており、チャンピオン獲得が大いに期待される

史上最高の激戦として注目を集めている今年のPWRC。全8戦中、6月までに4戦を終了したが、いずれのラリーでも三菱ランサーエボリューションユーザーが素晴らしい戦いぶりを見せている。

2月の開幕戦スウェーデンでは、フィンランドの新鋭ユッホ・ハンニネン選手が光るスピードを見せつけた。慎重な立ち上がりから徐々にペースを上げていくと、ライバルを次々にかわし見事トップでフィニッシュしてみた。ただし、燃料ポンプの規定違反という手痛い問題で失格となってしまったのは何とも残念だった。

3月の第2戦メキシコでは、昨年の英国チャンピオンであるマーク・ヒギンズ選手が快勝。ライバルの自滅を誘うハイペースで走り抜き、PWRC挑戦2年目で待望の初優勝を飾った。5月の第3戦アルゼンチンでは地元推薦枠で出場のベテラン、フェデリコ・ヴィラグラ選手が並み居るレギュラー勢を抑えてPWRC初優勝をマーク。母国ファンの声援を一身に集めることとなった。

そして6月の第4戦アクロポリスでは若手たちが気を吐いた。序盤リードを奪ったのは、今年からPWRCに参戦のオーストリアのアンドレアス・アイグナー選手。しかし第1レグ最終SSでパンクを喫して一歩後退すると、代わってハンニネン選手がトップを攻撃した。ところが、2度行われた48.88kmのロングステージで彼もマシンを傷め、結果、優勝は新井選手の手。それでも、計5回のトップタイムを奪ったアイグナー選手が2位でフィニッシュし成長ぶりを示した。

残念なラリーが続いているのは昨年PWRCランキング2位の奴田原選手だ。スウェーデンではパンクで2分を失って5位、メキシコでは駆動系トラブルに見舞われて7位、そしてアルゼンチンでは序盤でリタイアに追い込まれている(アクロポリスはスキップ)。奴田原選手の今後の出場イベントは、ニュージーランド、ラリージャパン、アイルランドの3戦。逆襲が大いに注目される。



WRカーからスイッチしたアイグナー選手は、当初はグループNに慣れることに少々苦労していたが、アクロポリスでは自覚ましいスピードを発揮。シーズン後半に期待が高まる



第1レグがほぼすべてキャンセルとなる異例の展開となったアルゼンチンだったが、ラリーの様相もいつもと異質。スポンサーのヴィラグラ選手が新井選手の追撃を振り切った



今年PWRC、全日本ラリー選手権ともに歯車の噛み合わせが1戦1戦と続いている奴田原選手。これからの巻き返しに、特に10月のラリージャパンでの母国イベント2連戦が期待される



昨年のスウェーデンでグループN優勝を飾っているハンニネン選手は、PWRCに加わってもやはり速かった。日本初登場となるラリージャパンでどんな走りを見せてくれるか楽しみ



マシン製作会社による問題で、昨年のPWRCではポイント割奪の不運に見舞われたボツン選手だが、心機一転の今年も強さは健在。どのラリーで勝つても不思議でない実力の持ち主だ



今年PWRCに挑んできた4年連続ポルトガルチャンピオンのアラウジョ選手。表彰台はないものの光る速さを随所で発揮。彼もラリージャパンに登場するドライバーのひとつである

## 三好秀昌選手、『第2の故郷』アフリカで奮闘す

かつて篠塚建次郎選手を擁してサファリラリーに挑んだ三菱自動車チームのチームマネージャーを務め、その後は自らドライバーとしてサファリに出場し、グループN優勝を果たすこと2回。アフリカで傑出した経歴を持つ三好秀昌選手が、『第2の故郷』を自認するその大地に8年ぶりに乗り込んだ。



サファリラリーを疾走する三好選手。競技区間の距離は300km弱だが、紛れもないサファリにこだわった

当初は復活したサファリラリーのみに出場する計画だったが、足慣らしを兼ねて挑んだタンザニアラリーでいきなり総合優勝。アフリカ選手権(ARC)初の日本人ウィナーとなった。続く本命のサファリはARC第2戦として開催され、三好選手は総合4位 / ARC2位に入賞。ARCシリーズリーダーとして第3戦ウガンダラリーにも出場し、総合 / ARCともに2位に。さらには第4戦ルワンダラリーにもエントリー。ここで総合4位 / ARC3位の結果を残し、果敢なるアフリカ連戦をひとまず終えた。

この間、三好選手は一度も日本へと帰国することなくアフリカ各国を転戦。現地人スタッフを自ら引き入れて組織した完全なプライベートチームとしての活動だった。その一方、コドライバーを務めた市野諒選手やチーフメカニックの東海林哲郎氏など、アフリカにひとかどならぬ思い入れと経験を持つ有志た

ちの協力があったからこそチャレンジでもあった。三好選手は次のように語っている。「アフリカのラリーも千差万別で、『サファリ = アフリカ』ではない、ということがよくわかりました。アフリカは広くて、奥が深いんです。また来年チャレンジできるように頑張ります」

往年の三菱ワークスカラーに彩られた新旧ランサーをバックに、三好選手と市野選手の間立つのは、1974年サファリでの三菱自動車WRC初優勝の立役者ジョッキン・ダン氏



Enjoy MOTOR SPORT!

# COLT でモータースポーツを始めてみよう!

三菱コルト RALLIART Version-R / コルト1.5Cでダートにチャレンジ!

モータースポーツはお金がかかる、と考えている方はかなり多いのではないだろうか? もちろんそれは間違いではない。しかし、すべてでもない。

たとえば三菱ランサーエボリューション。モータースポーツユースを前提に、三菱自動車とそのノウハウを結集して開発し続けてきた高性能4WDターボモデルだ。しかし、このクルマでなくとも、モータースポーツにチャレンジすることはいくらでも可能である。こうした半ば当然の事実が、昨今は意外と見逃されがちなのではないだろうか。

たとえば三菱コルト。ベーシックなファミリーコンパクトである。マニュアルトランスミッションの設定も当初はなかった。だが、走りの素性の良さから、スポーツモデルやマニュアルモデルを要望する声が殺到。これを受けて三菱自動車では、4G15型1.5ℓ MIVECターボエンジンにゲトラッグ社製5速M/Tを組み合わせ、併せて車体全体を強化した『コルト RALLIART Version-R』を発売。同じく5速M/Tを積む1.5ℓ自然吸気アルミエンジンの『コルト1.5C』もラインナップした。

国際舞台で活躍するラリードライバーの田口勝彦は言う。

「モータースポーツの原点って『クルマを操る楽しさ』だと思うんですよ。競技でなくても、ダートの上で走らせてみるだけで、『クルマってこんなふうにも動くんだ』と新鮮な感動を味わえると思います。まずはクルマを操る技術を磨くこと。それが第一歩です。そのためには、多少ぶつけちゃったりしてもフットコロがあまり痛まないクルマで始めるのが一番だと思いますよ。その点、コルトは価格も手頃だし、走りもいい。ハンドリングは素直でトラクションもある。気軽にモータースポーツを楽しむためのベース車として、うってつけの1台だと思います」

地区戦以下のダートトライアルなどでは、全日本選手権とは異なる、より細かなクラス分けが行われているケースが多い。つまりウデさえ磨けば結果も期待できる。そしてラリーアートでは、サスペンションやL.S.D.といった競技用パーツも順次リリースしており、ユーザーのモータースポーツ活動を助けたいと願っている。田口は言う。「モータースポーツの楽しさをひとりでも多くの人に味わっていただきたいですね。安全面さえちゃんとしていけば参加できるイベントは案外たくさんありますから。モータースポーツって、結構安く、手軽にできるものなんですよ」



コルトはすでに実戦にも登場済み。全日本ダートトライアルN1クラスにVersion-Rで平田朋也選手(中段の写真)が出演しているほか、WRC出場経験もある大ベテランの駐地健雄選手(左下の写真)は何とCVT仕様で挑戦中。今後はジムカーナへの登場も期待される

コルト RALLIART Version-R  
ダートトライアル競技仕様車(例)



ここには競技車両の製作例の写真を掲載した。ロールオーバーのバンプ径は40mm。セーフティバーネスのアンカーはリヤシートの後部のフロア部に取った。また、ロールオーバーはダッシュボード貫通式ではないため、エアコンの吹出口も生かす。ただし、グローブボックスの開閉を行うためにフタをカットするなどの工夫をしている



三菱コルト RALLIART Version-R  
メーカー希望小売価格(5速マニュアル)  
1,974,000円(消費税込価格1,880,000円)  
写真はRECARO Edition



三菱コルト 1.5C  
メーカー希望小売価格(5速マニュアル)  
1,281,000円(消費税込価格1,220,000円)  
エンジン:1.5ℓ MIVEC DOHC 16VALVE INTERCOOLER TURBO  
最高出力:115ps / 6000rpm



開幕戦で水煙を巻き上げながら突っ走る木下選手組のランサーエボリューション。耐久レースながらも「攻めて勝つ」ことを目指す彼らのアプローチこそ、スーパー耐久史上初のSTクラス2車両による総合優勝の原動力となったに違いない



JAPANESE RALLY CHAMPIONSHIP 全日本ラリー選手権



一昨年に大怪我を負った石田(正)選手だが、名実ともに完全復活

石田正史選手、3年ぶりの総合優勝

4輪駆動部門と2輪駆動部門が統合されて2年目を迎えた全日本ラリー選手権。今シーズンは全10戦で行われるが、通算9回目のチャンピオンを目指す奴田原文雄選手は前半の6戦を終えて未勝利。いずれのラリーでもズバ抜けた速さを見せているものの、トラブルやアクシデントが続いて、第5戦での3位がこれまでのところの最上位という思わぬ苦戦を強いられている。一方、ターマックラリーとして開催された第3戦では、ベテランの石田正史選手が好タイムを連発。開幕2連勝を果たしたスバルの勝田範彦選手を最後まで寄せ付けず、3年ぶりとなる全日本ラリー優勝を飾った。第5戦終了時点で石田(正)選手は三菱勢最上位のランキング2位につけており、さらなる好成績が期待される。また、第4戦では大嶋治夫選手と大庭誠介選手のベテラン同士が僅差の2位争いを展開。軍配は大嶋選手に繋がったが、衰えを知らぬベテラン勢のテクニックが改めてクローズアップされている。

ALL JAPAN DIRT TRIAL CHAMPIONSHIP 全日本ダートトライアル選手権



熟成のエボVIIで3連勝の北島選手。一気に王座獲得なるか?

北島広実選手がSA2クラスで3連勝

今シーズンは開催9戦中戦分の有効ポイントで争われる全日本ダートトライアル選手権だが、N3、SA2、Dの3クラスはエントリー/上位賞とともに三菱車の独壇場。第4戦終了時点での3クラスのランキングトップも、すべて三菱車ユーザーが占めている。最もノーマルに近いN3クラスでは、吉村修選手が第2戦と第4戦の2勝をマーク。開幕戦優勝、第2戦2位と好スタートを切った田崎克典選手は、続く2戦で奮わず。ただし有効ポイント制では最後までどうなるか分からないのが正直なところだ。SA2クラスは、昨年シリーズ2位ながら6勝であった北島広実選手が躍進。開幕戦こそ同クラスに転向してきた荒井信介選手に勝利を譲って2位となったものの、第2戦以降は3連勝をマークして覇気を見せている。改選無制限のDクラスでは若手の宮入友秀選手とベテランの河内涉選手、三上悟選手が三つ巴のタイトル争いを展開。一戦一戦、目が話せないバトルが続く。

ALL JAPAN GYMKHANA CHAMPIONSHIP 全日本ジムカーナ選手権



車両の性能差が最も小さいSA2クラスで勝ち続ける茅野選手

三菱ランサー、2クラスで開幕5連勝

全日本ジムカーナ選手権における三菱ランサーエボリューションへの厚い支持は今年も変わらなかった。第5戦終了時点のN4クラスとSA3クラスの各ランキング上位10位以内は、1台を除く全車がランサー。SCクラスでもトップ10内の7台がランサーという状況だ。シリーズは全9戦中6戦分の有効ポイントで争われるが、N4クラスでは3年連続王者の茅野成樹選手が昨年に続いて開幕5連勝を達成。毎回接戦ながらも確実にコマナ秒上回ってくる走りは驚異的と言える。SA3クラスでは、開幕戦を前年チャンピオンの川路一見選手、第4戦は天満清選手が制したが、その他の3戦は西原正樹選手が優勝。昨年シリーズ2位にいた雪等を果たさんという意気込みを見せていた。SCクラスでは、20連勝の左手をかけていた谷森雅彦選手が第2戦で敗れ、鳥居孝成選手が3年ぶりの全日本優勝。ただし第3戦以降は谷森選手が巻き返し、ポイントランキングトップを譲る気配はない。

2007年2-6月 海外/国内モータースポーツ主要結果表

RESULT

Table with multiple columns listing various motorsport events (e.g., FIAプロダクションカー世界ラリー選手権, FIA世界ラリー選手権, FIAアジア・シニアラリー選手権) and their winners/positions.

スーパー耐久シリーズ 木下/中谷組、STクラス2車両で史上初の総合優勝を獲得!

三菱ランサーエボリューションが新たな金字塔を打ち立てた。最小限の競技専用改造を施した市販車で争われる国内サーキットレースの花形、スーパー耐久シリーズ。主に排気量別に分けられた4クラスの混走で開催されているが、シリーズ史上初めて、STクラス2車両のランサーエボリューションがボルシェをはじめとする大排気量のSTクラス1車両を抑え、総合優勝を勝ち取ったのだ。その立役者となったのは、ディフェンディングチャンピオンである木下隆之選手/中谷明彦選手組。そして舞台は開幕戦仙台ハイランドだった。その実、レースは降雨と霧に見舞われ、全周回の3分の2でセーフティカーが入る荒れた展開だったが、そうした中でランサーエボリューションはケタ違いの安定性を発揮。次々にSTクラス1車両をかわしていき、実力で総合トップを奪取したのだ。さらに総合2位で続いたのもランサー、それも西村元気選手/菊地靖選手組が駆るランサーエボリューションワゴンであった。今年の開幕戦は、路面コンディションを選ばない三菱自動車のオール-

ホイール・コントロール(AWC)技術の高さを、まさにまざまざと見せつけた一戦となったのである。続く第2戦は晴天の鈴鹿サーキットで開催されたが、STクラス2はまたもランサーエボリューションの独壇場と化した。木下選手組と、阪口良平選手/砂子塾長選手/小川日出生選手組がピット作業のたびにトップを入れ替え合う接戦を展開。最終的には木下選手組が逃げ切って開幕2連勝を達成し、同コンビで通算5回目の王座を目指すシーズンのスタートを最高の形で切ることとなった。1996年の初戴冠から昨年までの間、スーパー耐久シリーズで通算9回のチャンピオンを獲得してきたランサーエボリューション。11月の最終戦ツインリンク



ワゴンの規定概念を根底から覆す「レーシングカーっぶり」を見せるエボワゴン。西村選手組は開幕戦総合2位に続き、ドライの第2戦でも実力でクラス首位を走る速さを披露。優勝という目標がいよいよ現実味を帯びてきた



7年ぶりの王座を狙うMSC山形代表の小川日出生選手率いるRSオガワ。開幕戦では無念のリタイアを喫したが、第2戦では最後まで優勝を争ったすべりの2位に



雨の開幕戦を突如トップで繰り出したのはこの細野賢行選手組だったが、暫定表彰後にペナルティが課され「幻の勝利」。残るレースで雪等を目指す



開幕戦6位。第2戦3位と堅実なレースを続けて結果を残している濱田朋彦選手組。第2戦終了時点でランキング2位とはわずかに3ポイント差のランキング3位につける



## 各モータースポーツシーンで活躍する若手CMSC選手!!

CMSC(コルトモータースポーツクラブ)は、三菱車愛好者を中心としたJAF登録クラブで、東京の本部(会長:木全慶)および全国25支部(各々独立JAF登録クラブ)から構成され、現在約700名の会員が活躍しています。モータースポーツは年齢を超えていつまでも楽しめるスポーツ。CMSCでもベテラン選手の活躍はもちろん、若手選手の台頭も目立ってきております。以下、全日本選手権(ラリー、ダートトライアル、ジムカーナ)、スーパー耐久シリーズで活躍する14名のCMSC若手選手とQ&Aアンケートをご紹介します。モータースポーツが楽しくて仕方ない人ばかり。モータースポーツを通じて多くの人と出会えたことが彼らの宝です。彼らCMSC若手選手の走りには是非ご声援のほどお願いします!

全日本ラリー選手権ドライバー	全日本ラリー選手権コドライバー	全日本ダートトライアル選手権	CMSC浜松 村杉哲郎選手(33歳)	CMSC鹿兒島 永山聡一郎選手(33歳)	CMSC帯広 和泉泰至選手(31歳)	CMSC福島 谷津良嗣選手(30歳)	CMSC長野 宮人友秀選手(29歳)
06年成績:JN4クラスシリーズ13位 07年6月までの成績:JN4クラスシリーズ13位	06年成績:JN2クラスシリーズ4位 07年6月までの成績:JN2クラスシリーズ12位	06年成績:N1クラスシリーズ10位 07年6月までの成績:N3クラスシリーズ14位	06年成績:N4クラスシリーズ5位 07年6月までの成績:(N1クラス最高位11位)	06年成績:未出場 07年6月までの成績:SA2クラスシリーズ5位	06年成績:N3クラスシリーズ6位 07年6月までの成績:N3クラスシリーズ4位	06年成績:SA2クラスシリーズ2位 07年6月までの成績:SA2クラスシリーズ1位	06年成績:N3クラスシリーズ14位 07年6月までの成績:(N3クラス最高位13位)

- |  |   |  |  |  |
|--|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①24歳</li> <li>②ダートトライアル</li> <li>③単純にダートを走りたかったから。車両コントロールの練習に足るし、サーキットを走るより林道を走るほうが楽しくスリルもあったため、すぐラリーに転向。</li> <li>④8年</li> <li>⑤最近、自分の走りを見てもう少し上手いと思うのが嬉しい。また色々な人と出会えること。</li> <li>⑥お気に入りの車に乗れる。無理せず続けること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①21歳</li> <li>②ラリー</li> <li>③ラリーをやっている人の隣に居てもいい林道を走ると走ると感動したから。</li> <li>④ラリーを始めて12年くらい(途中中断あり)。</li> <li>⑤出会い。ラリーは毎回いろんなドラマがあります。勝負も大切だけど、まずは完走が第一条件。</li> <li>⑥色々な人との出会いはわたしの財産。また勝ったときのうれしさなんともいえないです。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①20歳</li> <li>②ダートトライアル</li> <li>③大学自動車部の活動で。</li> <li>④大学卒業後本格的に始めて10年。</li> <li>⑤公道の運転している時一般の人より安全に速くドライブできているんですよ。</li> <li>⑥自分の身のまわりに合わせて上手に付き合っていければいいと思います。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①18歳</li> <li>②林道タイムアタック</li> <li>③CMSC福島前会長の菅野茂さんとのお会い。</li> <li>④10年。</li> <li>⑤モータースポーツを通じていろんな人に出会えること。</li> <li>⑥いろんな意味で無理をしない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①18歳</li> <li>②ダートトライアル</li> <li>③両親がやっていたので、当たり前のように自分もやるんだと思ってた。</li> <li>④自分がエントリーしてからは9年目。</li> <li>⑤いろんな人に出会えること。</li> <li>⑥何事も真剣にやる事。走る事が好きになる事。</li> </ul> |
|--|---|--|--|--|

全日本ダートトライアル選手権	CMSC長野 平田朋也選手(25歳)	CMSC群馬 岩田賢剛選手(24歳)	CMSC千葉 山野光司選手(32歳)	CMSC千葉 北島広実選手(33歳)	CMSC千葉 堀内涼選手(29歳)
06年成績:N1クラスシリーズ5位 07年6月までの成績:(N1クラス最高位11位)	06年成績:未出場 07年6月までの成績:SA2クラスシリーズ5位	06年成績:N3クラスシリーズ6位 07年6月までの成績:N3クラスシリーズ4位	06年成績:SA2クラスシリーズ2位 07年6月までの成績:SA2クラスシリーズ1位	06年成績:N3クラスシリーズ14位 07年6月までの成績:(N3クラス最高位13位)	06年成績:N1クラスシリーズ5位 07年6月までの成績:(N1クラス最高位11位)

- |  |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①18歳</li> <li>②オートクロス</li> <li>③実家の裏山がモーターランド野沢で小学生の頃からダートをしていた。</li> <li>④5年。</li> <li>⑤思い通りに走れて結果が出た時各地で知り合いが出来たとき。</li> <li>⑥同じ道にいる先輩方はいいアドバイスくれるから、どんな質問などもした方がいい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①16歳</li> <li>②軽自動車の耐久レース</li> <li>③バイク免許の代わりに軽自動車耐久レースをやらせてやるお父さんに言われたのがきっかけ。</li> <li>④6年。</li> <li>⑤目標、夢、叶えられた時知り合いの人と友人になれること色々な地域に行ける事!</li> <li>⑥即行動してみる事!必ず自分に合うカテゴリーがあるはず!参加の仕方も色々です!</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①19歳</li> <li>②ダートトライアル</li> <li>③力のない車でもドライブが楽しめやすい</li> <li>④12年</li> <li>⑤優勝した瞬間</li> <li>⑥続けて行ける環境を作ること早くに目標とする選手や走りを見つけてることが大切</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①18歳</li> <li>②ダートトライアル</li> <li>③大学の自動車部(先輩は赤松裕子選手)</li> <li>④今年で3年目(ラリーに専念しプランクが8年位あります)</li> <li>⑤信頼できる仲間が増えたこと</li> <li>⑥クラブやショップで良い先輩や指導者を見つけたこと。向上心を持つこと。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①23歳</li> <li>②ダートトライアル</li> <li>③全日本ダートラに参加している父・叔父の影響。</li> <li>④6年。</li> <li>⑤実力を出し切ったゴール、ライバルに競り勝って表彰台に上った時。</li> <li>⑥まずは費用が安く済む低年式車で、モータースポーツを十分に楽しむ事から始める。</li> </ul> |
|--|---|---|---|---|

全日本ダートトライアル選手権	全日本ジムカーナ選手権	スーパー耐久シリーズ	CMSC広島 川崎勝己選手(34歳)	CMSC愛知 鳥居孝成選手(31歳)	CMSC山形 阪口良平選手(31歳)	CMSC栃木 朝倉貴志選手(29歳)	CMSC栃木 朝倉宏志選手(25歳)
06年成績:N3クラスシリーズ4位 07年6月までの成績:N3クラスシリーズ4位	06年成績:SCクラスシリーズ4位 07年6月までの成績:SCクラスシリーズ2位	06年成績:STクラスシリーズ3位 07年6月までの成績:STクラスシリーズ7位	06年成績:STクラスシリーズ8位 07年6月までの成績:STクラスシリーズ6位	06年成績:兄と同じ 07年6月までの成績:兄と同じ	06年成績:兄と同じ 07年6月までの成績:兄と同じ	06年成績:兄と同じ 07年6月までの成績:兄と同じ	06年成績:兄と同じ 07年6月までの成績:兄と同じ

- |  |   |  |  |  |
|--|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①21歳</li> <li>②ダートトライアルとカート</li> <li>③僕の回り色々なモータースポーツをやっている人が多かったから。</li> <li>④13年。</li> <li>⑤楽しい会とか人の意見とか仕事と私生活の勉強になります。</li> <li>⑥まずは長く続けることが一番。自分のペースで楽しんで行くこと。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①24歳</li> <li>②ジムカーナ</li> <li>③水本登志夫選手、堀江真徳選手にダートをやらせられたこと。こんな人達と戦いたくないと思いつくまで!</li> <li>④8年。</li> <li>⑤まずは一般道運転中の危険回避が上手くなるように。全国各地に知り合いが出来たこと。</li> <li>⑥モータースポーツは奥が深いです。運転技術の向上と共に、車の楽しさを知る事が出来ると思っています。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①15歳</li> <li>②カート</li> <li>③親の薦めでカートを始めたのがきっかけ。</li> <li>④12年</li> <li>⑤優勝したときの喜び、同じ目の人ゆえに仲良く知り合いになれること。</li> <li>⑥モータースポーツ、なのでサーキットで思う存分一杯走りましょ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①20歳</li> <li>②単レース</li> <li>③GT選手権にあこがれて</li> <li>④5年</li> <li>⑤チェックを受けた瞬間(弟と同じ)</li> <li>⑥長く続けられるように無理をしないでください。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①18才</li> <li>②単レース</li> <li>③兄・朝倉貴志がやっていたから</li> <li>④13年</li> <li>⑤チェックを受けた瞬間</li> <li>⑥長く続けられるように無理をしないでください。</li> </ul> |
|--|---|--|--|--|

## 全国に広がるCMSCネットワークは25支部。三菱車によるモータースポーツ活動を積極展開!

コルトモータースポーツクラブ(CMSC)は、1964年10月にサーキットレースの三菱自動車ワークスチームとして設立され、JAFにクラブ登録された日本でもっとも長い歴史と伝統を持つモータースポーツクラブの一つ。東京の本部のほか日本全国に広がるCMSCは25支部。モータースポーツ競技への参加や競技会主催と様々な三菱車による活動を積極的に展開しています。モータースポーツを楽しむにはクラブに加入するのが一番。「様々なノウハウを手に入れられる」、「同じ趣味を持った仲間との交流を広げられる」、「アドバイスをもらえる」、「ファミリーで楽しめる」などのメリットがあります。さあ、貴方も一緒にモータースポーツを楽しんでみませんか!

貴方もCMSCの門をたたいてみませんか CMSC支部連絡先は以下の通り。(自=自宅 動=勤務先)

道北 TEL:0166-82-712x(鎌田伸・動)	帯広 TEL:0155-21-720x(青沼達也・動)	札幌 TEL:011-812-7365(山田善之・自)
青森 TEL:0172-82-2005(鶴ヶ谷慶市・自)	秋田 TEL:0189-839-691x(近藤隆行・自)	岩手 TEL:019-651-035x(藤澤祥久・動)
山形 TEL:0237-55-5610(小川日出生・動)	仙台 TEL:022-772-5521(柿崎博史・動)	福島 TEL:024-531-4451(谷津良嗣・自)
栃木 TEL:028-600-5701x(川口法行・動)	群馬 TEL:027-361-2222(荒井信介・動)	茨城 TEL:0291-39-5621(藤賀誠史・自)
長野 TEL:0267-67-8322x(上野瑞志夫・動)	埼玉 TEL:048-971-778x(小山俊哉・自)	千葉 TEL:043-233-6551(友野賢・動)
神奈川 TEL:046-220-5610(関根好晃・動)	浜松 TEL:0532-25-4196(荒津啓司・動)	愛知 TEL:0587-21-8281(小玉恵司・動)
岐阜 TEL:0573-68-2030(浅野博季・自)	大版 TEL:06-6928-6566(岩下利勝・自)	広島 TEL:0829-38-4406(平原和幸・自)
鳥根 TEL:0859-33-4131(杉坂啓一・動)	香川 TEL:087-882-4335x(白井修・動)	大分 TEL:097-524-3751x(姫野一彦・動)
鹿兒島 TEL:099-262-2602x(山口修・動)		

CMSC会員限定イベント '07 CMSC 全国大会 8/4開催!! 福島県・エビスサーキット

CMSC会員限定イベントのCMSC全国大会が今年8月4日(土)に福島県二本松市のエビスサーキットにて開催されます。CMSC会員一堂に会し、結束と交流を図る2年に一度の祭典です。前大会の05CMSC全国大会の支部対抗ジムカーナではCMSC青森が3連覇(01年、03年、05年)の栄冠を手に入れています。また、日頃会えない他支部と親睦を深める懇親会では楽しい催しがいっぱいあります。CMSC会員以外も参加できます。ご了承ください。

「07CMSC全国大会」概要  
開催日:2007年8月4日(土)  
場所:エビスサーキット(福島県二本松市)  
主な内容:ジムカーナ競技、幹部会議、懇親会

## 「クルマの学校 スポーティードライビングコース」開催 RMCメンバー5名も参加!



5月27日(日)、愛知県岡崎市の三菱自動車技術センターにおいて「クルマの学校 スポーティードライビングコース」が開催されました。今回の「スポーティードライビングコース」は24名の参加枠に122名もの応募者があふれるほどの人気ぶり。ラリーアートメンバーズクラブ(RMC)会員からは5名が参加。遠くは茨城県より参加の会員もいました。「スポーティードライビングコース」は三菱自動車製のスポーティーカー所有者を対象に、三菱自動車の開発の中心となる岡崎技術センターにおいて「楽しく、安全に走るために」基本を学ぶことを目的に開催されたもの。講師はなんと普段ランサーエボリューションの開発に関わる各セクションのベテラン勢、三菱自動車の開発者たちで、丸一日、参加者にてい



高速周回時のバンクを体験



三菱自動車の最新4WD技術の講義も



低μで滑りやすい路面を体験



スーパー耐久等で活躍中の木下選手のデモ走行も



基礎と基本のドライビングポジションをアドバイス 一人ひとりにスタッフが細かなアドバイスを実施 A班の集合写真 B班の集合写真 C班の集合写真

詳しくは → 三菱自動車「クルマの学校」webサイト <http://www.kurumano-gakko.com/> ラリーアートHP <http://www.ralliart.co.jp/home.html>

## ラリーアートピット インター川崎

昨年12月10日にオープンした「ラリーアートピット インター川崎」。ラリー好きの皆さんは良くご存じのショップ、「ストリートライフ」の中に店舗として誕生しました。オーナーの吉野氏は自身が海外ラリーに参戦しモータースポーツ経験があり知識も豊富なので、これからラリーに参戦したい! モータースポーツを始めてみたい! と思っている方にはピッタリの店舗です。「ラリーアートピット インター川崎」は従来のピットとは、なんだか少し違っています。もともと「ストリートライフ」はランチャやジョーのラリー用車両やダートトライアル用車両を製作、参加型の熱いオーナーが作り上げた熱いショップなのです。それだけでも十分注目を集めていた「ストリートライフ」なのですが、三菱車しか扱えないような「ラリーアートピット」を併設したのはなぜ? 「ラリーやダートといった、やっぱり三菱」なんだそうです。いやいや感動ものですね! 三菱のイメージをしっかりと育てな

ら、ランチャやジョーも手がける懐の広さ。「ラリーアートピット インター川崎」は大注目なんです! ジョーの車を集めた練習会に三菱車も参加させ、コルトVer-Rのダート車をデモ走行させたりとお客さまを飽きさせない姿勢。いつでもそんな工夫の詰まった「何か」を仕掛けていく活火山のようなピット店なのです。店長の渡辺氏も全日本ダートトライアルの会場で物販ブースを出展し、「ダートトライアルって見てだけでも面白いですね」とつぶやいていました。モータースポーツを楽しく、見るだけでも面白く、モータースポーツをやってみよう!...などモータースポーツを熱く語りたなら、ラリーアートピットインター川崎はピッタリのピット店です。ピット全店が行うキャンペーンの他にも、独自でホテル宿泊ギフト券や横浜中華街食事ギフト券などがプレゼントされるキャンペーンも開催しているので、ウェブサイトは見逃せませんぞ!



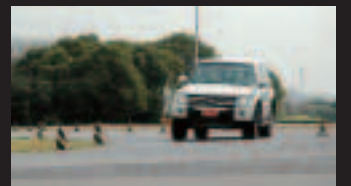
ラリーアートピット インター川崎 〒213-0013 神奈川県川崎市高津区末長1361-1 (株)ストリートライフ内 ラリーアートピットインター川崎 TEL 044 850-2226 FAX 044 850-2274 <http://streetlife.co.jp/ralliart/>



## パジェロのリニア感とトラクション性能が向上 パジェロ ロングボディ用「スポーツサスペンションキット」発売



グラベル路面でのパジェロの走り、見違えるように変わります



サスペンションの開発は、ラリードライバーの田口勝彦選手が監修

一般道からワインディングロードで、よりスポーティな走行を想定した減衰力固定式のショックアブソーバーとスプリングのキットです。グラベル路面を考慮し車高を約10mmアップ。パネレートと減衰力のリセッティングを行った結果、操舵に対するリニア感およびトラクション性能が向上しました。特に旋回時のトラクションを最適化することができ、また乗り心地も考慮したスペックとしています。ロングボディ(V97W/V93W)用

### パジェロ ロングボディ(V97W/V93W)用「スポーツサスペンションキット」内容

商品名	商品番号	税込価格(本体価格)	備考	
スポーツサスペンションキット	RAV97W01S1	119,280円(113,600円)	減衰力固定式、車高約10mmアップ ショックアブソーバー&スプリングキット	
構成部品	フロントストラット	RAV97301P1	減衰力固定式、白塗装、赤色ダストブーツ付(リヤ)	
	リヤショックアブソーバ	RAV97302P1	15,750円(15,000円)	
	フロントスプリング	RAV97303P1	13,440円(12,800円)	パネ定数アップ、車高約10mmアップ、赤塗装
	リヤスプリング	RAV97304P1	13,440円(12,800円)	

## デリカD:5(CV5W 4WD)用「スポーツサスペンションキット」開発中



デリカD:5の持つ高い操縦安定性と高速安定性そして走破性。ラリーアートは、ワークスならではのノウハウでさらにオンロードからオフロード走行まで、アクティブにドライブすることを視野に入れサスペンションを開発中です。スプリングパネレートと減衰力を最適化、走破性をさらに向上させています。8月末日発売予定

### デリカD:5(CV5W 4WD)用「スポーツサスペンションキット」内容

商品名	商品番号	税込価格(本体価格)	備考	
スポーツサスペンションキット	RACV5W01S1	価格未定	減衰力固定式、車高約5mmアップ ショックアブソーバ&スプリングキット	
構成部品	フロントストラット	RACV5301P1/02P1	減衰力固定式、白塗装、	
	リヤショックアブソーバ	RACV5303P1	01P(LH)、02P1(RH)	
	フロントスプリング	RACV5304P1	価格未定	パネ定数アップ、車高約5mmアップ、赤塗装
	リヤスプリング	RACV5305P1	価格未定	

## コルト用競技用パーツ 発売中

- 競技用「フロント機械式L.S.D.キット」
- 競技用「強化ブッシュ」
- 競技用「サスペンションキット」
- 競技用「ガード類パーツ」

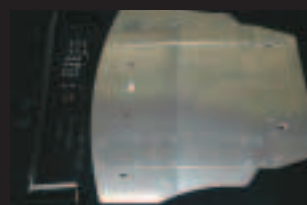
詳しい商品情報はラリーアート公式サイト  
[http://www.poweraxel.com/ralliart/catalogue/colt\\_version-r/index.html](http://www.poweraxel.com/ralliart/catalogue/colt_version-r/index.html)  
をご覧ください。



競技用「サスペンションキット」



競技用「フロント機械式L.S.D.キット」



アンダーガード



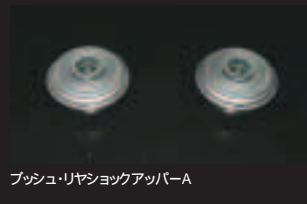
タンクガード



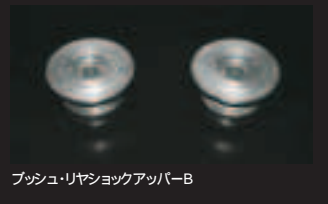
ブッシュ・フロントロワーアーム(リヤ)



インシュレーター・フロントストラット



ブッシュ・リヤショックアッパー-A



ブッシュ・リヤショックアッパー-B

商品名	商品番号	税込価格(本体価格)	備考	Ver.R	1.5C
競技用フロント機械式L.S.D.キット	RA250113S1	139,650円(133,000円)	カム角度45°15'35"75°イニシャル 約98N・m(初期値)		-
<補修部品>テーパーローラーベアリング	RA930740K1	5,250円(5,000円)/1個	スチール製リテーナー		-
ブッシュ・フロントロワーアーム(リヤ)	RA403441K1	4,200円(4,000円)	ゴム硬度アップ		-
インシュレーター・フロントストラット	RA406194K1	5,040円(4,800円)	ゴム硬度アップ		-
ブッシュ・リヤショックアッパー-A	RA594483K1	2,100円(2,000円)	ゴム硬度アップ		-
ブッシュ・リヤショックアッパー-B	RA594484K1	2,100円(2,000円)	ゴム硬度アップ		-
競技用サスペンションキット	RA227A01R1	99,750円(95,000円)	減衰力固定式、車高約20mmアップ ショックアブソーバ&スプリングキット		-
<補修部品>フロントストラット	RA227301R1	13,650円(13,000円)	減衰力固定式、白塗装		-
<補修部品>リヤショックアブソーバ	RA227302R1	11,025円(10,500円)			-
<補修部品>フロントスプリング	RA227303R1	12,600円(12,000円)	パネ定数アップ、車高約20mmアップ、赤塗装		-
リヤスプリング	RA227304R1	12,600円(12,000円)			-
アンダーガード	RA227402R1	89,250円(85,000円)	アルミ製、取付ブラケット付		-
タンクガード	RA227403R1	28,350円(27,000円)	アルミ製、取付ブラケット付		-
マッドフラップ	RA227410R1	38,850円(37,000円)	ウレタン製、フロント/リヤ4枚セット		-

強化ブッシュは、単品設定のため、1台分の場合は、2個必要となります。 上記すべての価格は、2007年7月現在の取付工賃を含まない希望小売価格

### ラリーアートパーツ2007フルラインナップカタログ請求方法

ラリーアートパーツを掲載したカタログをご希望の方は、9月30日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。  
宛先:〒107-0052 東京都港区赤坂6-19-40-403 「ラリーアート係」

### ラリーアートCOLLECTION 2007 SPRING & SUMMER 請求方法

カタログをご希望の方は、9月30日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。  
宛先:〒154-8691 世田谷郵便局私書箱6号「ラリーアートコレクションカタログ係」

### 編集後記

5月に岡崎で行われた「クルマの学校 セーフティドライビングコース」。ほんとに充実したプログラムでした(詳しくは10P)。今後も実施を継続するそうですので、みなさんの参加をおすすめします!(小湊)

### ラリーアートジャーナル Vol.118

発行:2007年7月24日  
編集:株式会社ラリーアート  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番7号  
徳栄ビル3階  
TEL:03-3798-3971 FAX:03-3798-3979

